

授業概要

専門演習で学んだ一連の研究方法の手続きに従い、これまで学んできた心理学のまとめとして、興味のあるテーマに沿って先行研究を調べ、研究方法を考え、結果を卒業論文として完成させていく授業である。学生自らが決定したテーマに従って、データを収集・解析し、結果をまとめ、科学的に考察を行うという一連の心理学研究を進めていく。最終的に卒業論文を執筆・提出する。また日時は決まっていないが、障害児者の施設や学校の見学・訪問も行う予定である。

授業計画

第 1 回	オリエンテーション	第 16 回	オリエンテーション
第 2 回	研究論文の書き方 1 目的と方法	第 17 回	研究方法の検討 1
第 3 回	研究論文の書き方 2 結果と考察	第 18 回	研究方法の検討 2
第 4 回	研究論文の書き方 3 図表と文献	第 19 回	研究テーマの構想確認発表
第 5 回	研究テーマ発表	第 20 回	実験・調査の実施 1
第 6 回	テーマに関する文献精読 1	第 21 回	実験・調査の実施 2
第 7 回	問題点の確認と討論 1	第 22 回	データ分析の結果発表 1
第 8 回	テーマに関する文献精読 2	第 23 回	データ分析の結果発表 2
第 9 回	問題点の確認と討論 2	第 24 回	分析結果の図表作成
第 10 回	テーマに関する文献精読 3	第 25 回	論文執筆 1
第 11 回	問題点の確認と討論 3	第 26 回	論文執筆 2
第 12 回	テーマに関する文献精読 4	第 27 回	論文執筆 3
第 13 回	問題点の確認と討論 4	第 28 回	論文の最終報告 1
第 14 回	問題点のまとめ 1	第 29 回	論文の最終報告 2
第 15 回	問題点のまとめ 2	第 30 回	卒論発表予行演習

到達目標

- ・研究テーマに関する文献を収集し、精読し内容が理解できる。
- ・4年間学んだ心理学的な問題点を、科学的・論理的に考えることができる。
- ・問題点を解明するために科学的研究を行い、論文にまとめることができる。

履修上の注意

- ・テーマは学生の主体性に任せるが、神経生理心理学や障害児者心理学などの分野などを履修していることが望ましい。
- ・自ら積極的・自主的に研究に臨むこと。

予習・復習

- ・興味を持った研究テーマの文献をしっかりと精読して発表に臨む。
- ・研究テーマのデータ収集・解析など、授業時間以外に進める必要がある。

評価方法

- ・授業態度 20%、卒業論文 80%にて総合的に評価する。

テキスト

- ・教科書は特に指定しないが、卒論のデータ解析にあたり、以下の本を参考にすることが望ましい
- ・参考書：SPSS と Amos による心理・調査データ解析
- ・著者名：小塩真司
- ・出版社名：東京図書
- ・出版年 (ISBN)：2008 年 (978-4-489-00675-3)

授業概要

これまでの学びの集大成として、心理学研究の実施と、それに基づいた卒業論文の執筆ができるよう指導する。具体的には、各自の興味のあるテーマについて先行研究をレビューしたうえで、研究目的を明らかにし、研究計画を立てる。さらに、研究計画に基づいて調査もしくは実験を実施し、収集したデータについて分析し、その結果を考察して卒業論文としてまとめられるよう指導する。

授業計画

第 1 回	進捗状況の振り返りと今後の課題設定	第 16 回	方法の執筆①
第 2 回	先行研究レビューの作成と発表①	第 17 回	方法の執筆②
第 3 回	先行研究レビューの作成と発表②	第 18 回	結果の発表とディスカッション①
第 4 回	先行研究レビューの作成と発表③	第 19 回	結果の発表とディスカッション②
第 5 回	研究目的と方法の検討①	第 20 回	結果の発表とディスカッション③
第 6 回	研究目的と方法の検討②	第 21 回	考察の発表とディスカッション①
第 7 回	研究目的と方法の検討③	第 22 回	考察の発表とディスカッション②
第 8 回	調査依頼の方法と倫理的配慮について	第 23 回	考察の発表とディスカッション③
第 9 回	質問紙の作成・実験課題の作成①	第 24 回	卒業論文執筆①
第 10 回	質問紙の作成・実験課題の作成②	第 25 回	卒業論文執筆②
第 11 回	データの収集と整理①	第 26 回	卒業論文執筆③
第 12 回	データの収集と整理②	第 27 回	要旨の作成
第 13 回	データの収集と整理③	第 28 回	卒論発表予行演習①
第 14 回	データ分析①	第 29 回	卒論発表予行演習②
第 15 回	データ分析②	第 30 回	卒論発表予行演習③

到達目標

1. データに基づいて論理的に思考し、思考した内容を文章で表現することができる。
2. プレゼンテーションにおいて、根拠に基づいて主張することができる。
3. 論理的で読みやすい文章を書くことができる。

履修上の注意

- ・ 欠席や遅刻の場合には必ずチューターに連絡をすること。
- ・ 専門演習の内容をよく復習すること。
- ・ 卒業論文の執筆に向けて計画的に取り組むこと。

予習・復習

- 【予習】研究の進捗状況を随時発表していくので、発表資料をまとめること。
【復習】発表に対する指導内容を記録し、それに対応すること。

評価方法

卒業論文の内容（55%）、授業での発表（30%）、受講態度（15%）を総合的に評価する。

テキスト

特になし。必要に応じて適宜参考資料を紹介する。

授業概要

これまでの各レポートとは異なり、4年間で最も関心を持つことが出来たテーマを選定し、1つのテーマについて真剣に考え、テーマに関する文献収集を行い、論理的な思考の訓練を行い、疑問に思うことを徹底的に調べ、掘り下げる必要がある内容を発見し、仮説を立て、研究目的にそって、論旨を組み立て、論文を書き上げるまでの指導を行う。

授業計画

第1回	ガイダンス（発表順の決定等）	第16回	ガイダンス等
第2回	前年度の春休み中に取り組んだ卒論の	第17回	データ収集方法の確定とデータの収集
第3回	進捗状況を発表	第18回	
第4回	（1回に3人の発表と質疑応答）	第19回	
	文献の検索方法		
第5回		第20回	
第6回	前回の発表で指摘された点を改善・発展	第21回	分析と結果の読み取り
第7回	させた各自の発表	第22回	
第8回	（1回に3人の発表と質疑応答）	第23回	
第9回	研究計画の確定	第24回	
第10回		第25回	本文の執筆、推敲
第11回		第26回	
第12回	（1回に2人の発表と質疑応答）	第27回	
第13回		第28回	
第14回		第29回	本文の完成と提出、卒業論文発表会の準備と発表予演
第15回		第30回	

到達目標

- ・ 先行研究と自分の研究の異動を理解し、説明することができる。
- ・ 自分の研究の目的と仮説に合ったデータを取得し、分析して結果を読み、考察を書くことができる。

履修上の注意

発表担当の週に無断欠席をした場合は、評価の対象から除外します。

予習復習

各ゼミ生の進捗状況に合わせて、次回の発表までに用意しておく資料や準備しておくレジュメ等を指示するので、指示を守ってください。指示を守れない場合、卒業研究の作成に支障を来す場合があるので自覚しておいてください。

評価方法

授業への参加態度(10%)、発表時のレジュメ(30%)、発表の仕方(30%)、卒業論文の内容(30%)などを総合的に評価します。

テキスト

学生が作成したレジュメを使用するため、テキストは指定しません。

授業概要

3年間で学んだことを踏まえ、各自研究テーマを決めて研究方法を検討し、卒業論文の完成につながるよう指導する。研究テーマに沿って必要な資料やデータを収集し、分析、考察していく過程で、研究課題への理解が深まるよう指導する。また、毎回、プレゼンテーションを行う機会を提供し、これまで学んだことを心理学的視点で考えられる応用力、論理的思考力へつながるよう指導する。

授業計画

第1回	オリエンテーション	第16回	オリエンテーション
第2回	関心のある研究論文の発表1	第17回	更なる論文、資料の収集の仕方
第3回	関心のある研究論文の発表2	第18回	方法の検討1
第4回	テーマの設定	第19回	方法の検討2
第5回	先行研究の読解1	第20回	調査・実験の実施1
第6回	先行研究の読解2	第21回	調査・実験の実施2
第7回	先行研究の読解3	第22回	調査・実験の実施3
第8回	先行研究の課題4	第23回	結果の整理1
第9回	先行研究の課題5	第24回	結果の整理2
第10回	問題点の討論1	第25回	考察のまとめ1
第11回	問題点の討論2	第26回	考察のまとめ2
第12回	問題点の討論3	第27回	卒業論文の執筆1
第13回	問題と目的のまとめ1	第28回	卒業論文の執筆2
第14回	問題と目的のまとめ2	第29回	卒論発表予行演習1
第15回	問題と目的のまとめ3	第30回	卒論発表予行演習2

到達目標

- ・研究テーマに関わる文献、資料を収集し、内容を理解できる。
- ・4年間の集大成として卒業論文を書き上げることができる。
- ・自身の研究課題を他者に分かりやすく伝えることができる。

履修上の注意

- ・無断欠席はせず、欠席する場合には連絡すること。
- ・主体的に参加すること。
- ・毎回の授業内容をノート等に記録すること。

予習・復習

- ・毎回の課題について、自ら積極的に調べておくこと。

評価方法

卒業論文と卒論発表(70%)、毎回の課題提出等(30%)をふまえ、総合的に評価する。

テキスト

- ・特になし。必要に応じて紹介する。

授業概要

まず、個々の研究課題に基づく研究計画の立案に向けて指導する。次に、それぞれの計画に沿って準備をしたうえで、滞りなく研究を進行できるように指導を進める。具体的には、調査研究の場合には、データ収集から分析、解釈、執筆の各プロセスに沿って指導し、課題研究等の場合には、内容や構成を整えたうえで最終成果としてまとめ上げていくための指導を行う。いずれにしても、形式と内容を整えた卒業論文又は卒業研究の完成に向けて指導する。

授業計画

第 1 回	研究計画の立案① (文献研究)	第 16 回	研究実施① (調査実施・結果整理等)
第 2 回		第 17 回	
第 3 回		第 18 回	
第 4 回	研究計画の立案② (文献研究の継続)	第 19 回	研究実施② (データ分析・データ解釈等)
第 5 回		第 20 回	
第 6 回		第 21 回	
第 7 回	研究計画の立案③ (文献研究の継続と研究計画の明確化)	第 22 回	卒業論文執筆/目次, 構成等
第 8 回		第 23 回	
第 9 回		第 24 回	
第 10 回	研究実施準備① (研究方法の具体化)	第 25 回	卒業論文執筆/序論①等
第 11 回		第 26 回	
第 12 回		第 27 回	
第 13 回	研究実施準備② (質問紙調査等の準備)	第 28 回	卒業論文執筆/序論②等
第 14 回		第 29 回	
第 15 回		第 30 回	

到達目標

1. 文献研究を踏まえた研究計画の立案ができる。
2. 研究倫理を適正に遵守して、研究を実施することができる。
3. 研究目的に応じて、適切な研究方法を選択することができる。
4. 卒業論文研究としての形式と内容を踏まえて、卒業論文又は卒業研究を作成できる。

履修上の注意

自ら主体的、積極的に取り組むこと。わからないことがある場合には随時質問し、解消すること。

予習・復習

予習：疑問点や検討点を整理する。

復習：授業内での指導を踏まえた振り返りと作業の進行

評価方法

卒業論文又は卒業研究への取り組み 50%、卒業論文又は卒業研究の到達度 50%によって評価する。

テキスト

使用しない。必要な文献は適宜紹介する。

授業概要

3年間の学びを踏まえ、各自で関心のある心理学のテーマについて研究計画を立案し、調査等を実施し、最終的に卒業論文としてまとめられるよう指導を行う。具体的には、一年間を通じて研究課題の設定の仕方、先行研究の調べ方、研究課題に合った調査方法の選び方、分析の書き方、研究成果のプレゼンテーションの仕方、そして論文としてのまとめ方について体系的に指導する。

授業計画

第 1 回	オリエンテーション	第 16 回	オリエンテーション
第 2 回	研究テーマの再考と決定	第 17 回	研究進捗の中間発表（4人が発表）
第 3 回	先行研究の精読と研究の構想 1	第 18 回	研究進捗の中間発表（3人が発表）
第 4 回	先行研究の精読と研究の構想 2	第 19 回	調査の実施と分析 1
第 5 回	先行研究の精読と研究の構想 3	第 20 回	調査の実施と分析 2
第 6 回	研究の構想発表（4人が発表）	第 21 回	調査の実施と分析 3
第 7 回	研究の構想発表（3人が発表）	第 22 回	結果の整理と考察 1
第 8 回	構想発表の振り返りと調査計画の検討	第 23 回	結果の整理と考察 2
第 9 回	調査計画の検討と発表準備	第 24 回	結果の整理と考察 3
第 10 回	調査計画の発表 1（2人が発表）	第 25 回	卒業論文の執筆 1
第 11 回	調査計画の発表 2（2人が発表）	第 26 回	卒業論文の執筆 2
第 12 回	調査計画の発表 3（3人が発表）	第 27 回	卒業論文の執筆 3
第 13 回	調査実施の準備 1	第 28 回	要旨の作成と発表準備
第 14 回	調査実施の準備 2	第 29 回	卒論発表の予行演習（4人が発表）
第 15 回	春学期のまとめと秋学期への準備	第 30 回	卒論発表の予行演習（3人が発表）

到達目標

- ・興味・関心のあるテーマに基づいて適切な研究計画を立てることができる。
- ・研究倫理を遵守して、研究を実施することができる。
- ・データ分析の結果をもとに、テーマとした心理学的現象について論理的考察を行うことができる。
- ・取り組んだ研究の成果について、卒業論文として報告することができる。

履修上の注意

- ・授業の時間外も含め、積極的・主体的に授業や研究に取り組むこと。
- ・発表会での質疑応答やグループワークでの活動など、積極的に発言し、仲間と協力する姿勢が求められる。
- ・欠席・遅刻の場合は必ず連絡すること。

予習・復習

- 【予習】文献検索やデータ収集、データ分析、発表準備など授業時間外を含め取り組むこと。
 【復習】他の学生からの意見や授業内での指導をもとに、自主的に作業を進めること。

評価方法

授業（ディスカッション等）への参加度（20%）、発表内容（30%）、卒業論文（50%）

テキスト

テキストは使用せず、必要に応じて資料等を配布する。

授業概要

これまでの3年間での学びを踏まえ、卒業論文又は卒業研究を執筆する。

学生ごとに興味のあるテーマを設定し、先行研究のレビューを行う。これまでに行われた研究の問題点を明らかにした上で、卒業論文・研究において明らかにしたい事柄（目的）・仮説（予測される結果）を設定する。質問紙法・実験法・面接法などを用いてデータを収集し、得られたデータを分析することで業論文・研究としてまとめる。

授業計画

第 1 回	オリエンテーション	第 16 回	オリエンテーション
第 2 回	関心のある研究論文の発表 1	第 17 回	調査・実験の実施 1
第 3 回	関心のある研究論文の発表 2	第 18 回	調査・実験の実施 2
第 4 回	関心のある研究論文の発表 3	第 19 回	調査・実験の実施 3
第 5 回	テーマの再確認	第 20 回	調査・実験の実施 4
第 6 回	先行研究のまとめ 1	第 21 回	調査・実験の実施 5
第 7 回	先行研究のまとめ 2	第 22 回	データ解析 1
第 8 回	先行研究のまとめ 3	第 23 回	データ解析 2
第 9 回	先行研究のまとめ 4	第 24 回	データ解析 3
第 10 回	先行研究のまとめ 5	第 25 回	卒業論文の執筆 1
第 11 回	問題点の討論 1	第 26 回	卒業論文の執筆 2
第 12 回	問題点の討論 2	第 27 回	卒業論文の執筆 3
第 13 回	問題点の討論 3	第 28 回	卒業論文の執筆 4
第 14 回	問題点の討論 4	第 29 回	卒業論文の執筆 5
第 15 回	データ収集の準備	第 30 回	卒業発表予行演習 1
		第 31 回	卒業発表予行演習 2

到達目標

- 自分に興味・関心のあるテーマの文献や資料を収集することができる。
- 発表レポートを作成することができる。
- 他の受講生の発表に対して、自分の意見をきちんと表明できる。
- 卒業研究として実行可能な研究を立案できる。
- 心理学科の卒業論文を執筆できる。

履修上の注意

- 卒業論文の提出に向けて、計画的に研究を進めること。

予習・復習

- 授業、発表準備に時間をかけること。
- 論文発表の際、発表者以外も論文に目を通し、内容を確認しておくことが必要である。発表者が作成したレジュメによって復習をすること。
- 卒業論文執筆のために授業外できちんと取り組むこと。

評価方法

- 提出された卒業論文の内容と1年間の講義態度を踏まえ、総合的に評価する。

テキスト

- 必要に応じて資料は配布する。
- 参考書など必要なものは、講義の中で適宜指示する。

授業概要

卒業論文の執筆・提出を目的として、研究テーマの設定、先行研究のレビュー、先行研究の問題点の指摘、卒業論文の目的や仮説の設定を指導する。その上で、様々な方法（質問紙法、実験法、面接法）を用いて、調査研究の実施、データ入力・分析、仮説検証、卒業論文の執筆および発表を指導する。

授業計画

第 1 回	オリエンテーション	第 16 回	調査依頼
第 2 回	心理学研究の流れ	第 17 回	質問紙作成
第 3 回	テーマの設定	第 18 回	調査依頼
第 4 回	文献検索	第 19 回	調査実施
第 5 回	研究論文の読み方（調査研究）	第 20 回	コーディング、データ入力
第 6 回	発表担当の振り分け	第 21 回	データ分析
第 7 回	論文発表 1	第 22 回	データ分析
第 8 回	論文発表 2	第 23 回	結果の読み取りと図表作成
第 9 回	論文発表 3	第 24 回	方法の文章化
第 10 回	論文発表 4	第 25 回	結果の文章化
第 11 回	研究計画の立案	第 26 回	考察の文章化
第 12 回	研究手続きの検討	第 27 回	問題と目的の文章化
第 13 回	尺度の検討	第 28 回	要旨の作成
第 14 回	質問紙作成	第 29 回	論文提出
第 15 回	春学期のまとめ	第 30 回	発表資料の作成
		第 31 回	発表会での研究発表

到達目標

- 卒業論文本文と要旨を執筆できる。
- 研究の発表資料を作成し、研究内容を説明することができる。

履修上の注意

- 心理学の分野の中でも、パーソナリティ心理学、臨床心理学等の領域で卒業論文執筆を希望する方。
- 積極的・主体的に授業および調査研究に参加する姿勢をもつこと。

予習・復習

授業時間内での学習に十分に取り組むこと。

評価方法

卒業論文本文および要旨の提出およびそれまでの授業態度を評価対象とする。

テキスト

特になし。必要があれば、授業内で別途指示する。

授業概要

- ・興味関心のある分野を広げるために、世の中の事象や時事問題について探求する姿勢を獲得することを目標として指導します。
- ・論文作成を通じて、文書の書き方、図表の作成、情報収集といった実力を習得するように指導します。
- ・文献検索をくり返し行い、情報リテラシーを獲得するように指導します。
- ・来年度の卒業論文作成への動機づけを高めるような声かけ、指導をします。

授業計画

第1回	オリエンテーション	第16回	オリエンテーション
第2回	論文・資料の集め方1	第17回	より詳細な論文、資料の集め方1
第3回	論文・資料の集め方2	第18回	より詳細な論文、資料の集め方2
第4回	論文・資料の集め方3	第19回	卒業論文の書き方1
第5回	発表資料の作成方法1	第20回	卒業論文の書き方2
第6回	発表資料の作成方法2	第21回	卒業論文の書き方3
第7回	発表資料の作成方法3	第22回	各自発表：卒論進捗状況報告1
第8回	各自発表1	第23回	各自発表：卒論進捗状況報告2
第9回	各自発表2	第24回	各自発表：卒論進捗状況報告3
第10回	各自発表3	第25回	各自発表：卒論進捗状況報告4
第11回	各自発表4	第26回	各自発表：卒論進捗状況報告5
第12回	各自発表5	第27回	各自発表：卒論進捗状況報告6
第13回	各自発表6	第28回	各自発表：卒論進捗状況報告7
第14回	各自発表7	第29回	まとめ
第15回	まとめ	第30回	卒論発表予行演習1回目
		第31回	卒論発表予行演習2回目

到達目標

- ・テーマをしぼり、卒業論文を書く力を身につけることができる。
- ・テーマに関連する文献や資料を収集する力をつけることができる。
- ・文献や資料の内容を理解できる。
- ・仲間の意見などを聞き、理解し、自分の卒業論文に反映させて行くことができる。

履修上の注意

- ・無断欠席は認められません。理由があり、出席できないときは必ず「ほうれんそう：報告・連絡・相談」をすること。全回出席するという強い意志を持って参加すること。

予習・復習

- ・卒論さくせいに時間と労力をかけること。
- ・スマホだけでなく、自分の頭、手、耳、目、足など自分の持てる力すべてを活用して調べること。

評価方法

評価基準は授業への参加と発表(3割)、授業中の課題への取り組み(3割)、期末試験(4割)である。

テキスト

テキスト、資料、論文、参考書等については、必要に応じて授業の中で紹介する。

授業概要

社会人としての幅広い教養と心理学の専門的知識を深め、現代社会の人間関係や組織の中で直面する課題に対し、主体的に取り組むことのできる力を身に付けることを目的とした科目です。特に、知覚心理学・認知心理学・生理心理学などの基礎領域に関するテーマにおける実験的研究を実践し、論文の執筆・提出が行得るよう指導します。まず、各個人で、研究テーマを設置し、先行研究のレビューを行い問題点を整理することで、研究目的や仮説を明確にします。次に、研究目的に沿って、実験を計画・実施します。実験に適した環境（例えば防音/暗室など）を整えるスキルの獲得も大きな課題です。最後に、収集したデータの分析および考察を行ったうえで、卒業論文としてまとめます。

授業計画

第 1 回	オリエンテーション	第 16 回	
第 2 回	研究テーマ選択	第 17 回	
第 3 回	先行研究の精読：問題点の整理	第 18 回	本実験：完了
第 4 回		第 19 回	データ解析
第 5 回		第 20 回	
第 6 回		第 21 回	結果の整理：読み取り・図表作成
第 7 回	研究計画：仮説構築	第 22 回	方法・結果の論文化
第 8 回	目的の論文化	第 23 回	考察
第 9 回	実験計画：手続き・分析の検討	第 24 回	考察の論文化
第 10 回		第 25 回	
第 11 回	実験実施準備	第 26 回	論文執筆
第 12 回		第 27 回	
第 13 回	予備実験	第 28 回	発表要旨・発表資料（スライド）の作成
第 14 回		第 29 回	
第 15 回	本実験：開始	第 30 回	
		第 31 回	まとめ

到達目標

- ・自身の興味関心のある心理学的現象について深く理解し説明できる。
- ・研究計画を立案、実施し、その成果を卒業論文または卒業研究としてまとめて報告することができる。

履修上の注意

- ・遅刻・欠席はしないこと。
- ・課題や討論に主体的・積極的に取り組むこと。
- ・授業計画の時期・項目は、研究を計画的に進めるためのマイルストーンであり、その期間に該当事項の進捗報告が求められる。

予習・復習

- ・授業計画の時期・項目に従って計画的に研究を進めるために、授業時間外で多くの活動を自主的に進める。
- ・進捗状態に合わせて随時指導教員と
- ・研究ノートを作成する。

評価方法

授業への参加態度（30%）、発表（資料含、20%）、卒業論文（50%）から総合的に評価する。

テキスト

テキストは指定しない。授業内で、参考書など必要な資料を適宜紹介します。